



## — 京都御所 —

## 京都御所略史

京都御所は、いわゆる内裏で、明治維新まで皇居で  
 した。もともと桓武天皇が8世紀末に平安京を造られ  
 たときの内裏は現在の京都御所より少し西にあり、そ  
 れは大極殿などの国家的行事を行う施設や様々な役  
 所とともに大内裏(平安宮)と呼ばれる四角いエリア  
 の中にありました。その内裏を平安宮内裏と呼んだり  
 します。時代とともにその平安宮内裏はあまり使われ



京都御所の正門 建礼門




なくなり、一方、大内裏の外に皇居を営まれることが多くなって(里内裏と呼ばれます)、やがて平安宮内裏は廃絶、その後  
 現在の御所の地にあった里内裏が14世紀以降内裏として使用され続け、明治維新に至りました。


14世紀以降の歴史でも、何度も建て直しがあり、また当初は小規模だったものが、次第に拡張しました。江戸時代には  
 徳川幕府によって8回建て直しが行われ(そのうち6回は火災による建て直し)、造営された時の元号をもって、慶長度内  
 裏、寛永度内裏などと呼ばれ、また造営事業について  
 も慶長度御造営、寛永度御造営などと呼ばれたりしま  
 す。建物様式や全体構成は時代の進展により変化  
 し、当初の平安宮内裏とは相当に違った様相を呈する  
 ようになりましたが、寛政2年(1790)造営の寛政度内  
 裏において、紫宸殿・清涼殿・飛香舎などの建築に際  
 し、平安時代の古い様式を復興することが行われまし  
 た。この内裏は嘉永7年(1854)に火災に遭い、翌年の  
 安政2年に再建されますが、この安政度内裏は寛政度  
 内裏をほぼそのままの形で再建したものであり、これ  
 が現在の京都御所です。(次頁に続く)



手前から小御所、御学問所。右奥に見えるのが御常御殿の屋根。



 マークは、御所・離宮の外側から、いつでもご覧になれます。

 マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

 マークは、春と秋には申込みが必要のない一般公開の際にご覧になれます。下記にて日程等をご確認  
 くださいますようお願いいたします。<http://www.kunaicho.go.jp/event/kyotogosho/kyotogosho.html>

 マークは、通常公開していない場所にあります。

## 京都御所略史（続き）



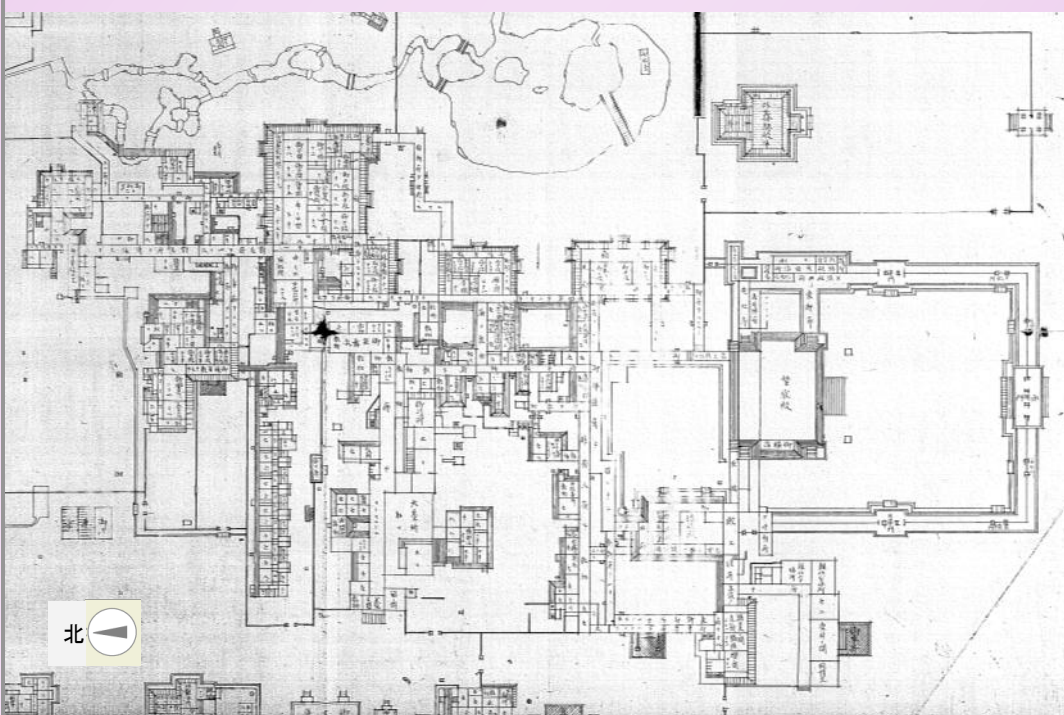
大正天皇御即位の際に建てられた新御車寄。右に見えるのが紫宸殿の屋根。



明治維新以降も京都御所は一定の変化を遂げています。北側に<sup>たいのや</sup>あった対屋という大きな御殿が明治期に取り払われ、一方大正4年の大正天皇即位礼に<sup>しんみくるまよせ</sup>あわせて新御車寄が新たに造られました。第二次大戦中には空襲による火災から主要建物を守るという目的

のもとに御台所や渡り廊下等が撤去されました。その一部は戦後、要望の高まりを受けて昭和40年代に復元されましたが、全てではありません。現在の京都御所の図を見ると、広い敷地の中に建物がいくつかに分かれて余裕をもって建っているように見えますが、昔はもっと建物があり、それらは廊下でつながっていたのです。

京都御所の建物は上記の通り古い様式を復興したものがあり、平安朝の昔を偲ばせてくれますが、それらは江戸時代ではもっぱら儀式に用いられたもので、そのほか、日常生活や実的な行事に用いられた建物は時代と共に発達してきた様式に基づいており、種々の建築様式が見られます。庭園も美しく、<sup>こごしよ おがくもんじよ</sup>小御所・御学問所の前にある<sup>おいけにわ</sup>御池庭は、池を中心とし



て落ち着いた広がりを感じさせ、行事や政治に緊張した人々を癒やしたことで<sup>おつねごてん</sup>しょう。御常御殿前の<sup>ごないてい</sup>御内庭は孝明天皇や明治天皇が楽しまれたお庭です。また御殿内には障壁画が約1800面あり、安政度内裏造営当時の京都絵師の絵を広く見ることができます。一部には寛政度内裏の障壁画も残されています。

昭和2年に作成された京都御所の図面(南部分)。各御殿は廊下で繋がり、建て込んでいる。





こうしゅん

# 迎春 北の間襖「花鳥図」

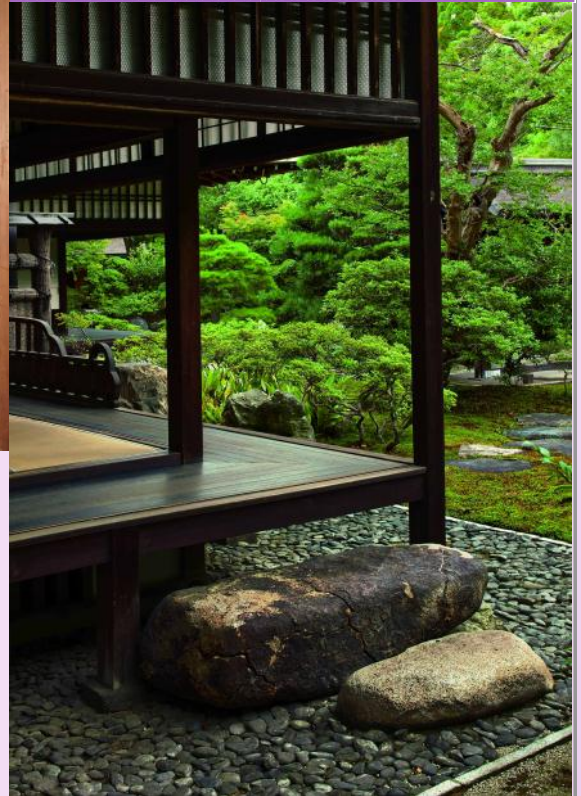


この襖絵を以下のとおり展示します。

京都御所 秋の一般公開  
平成25年10月31日(木)～11月4日(月・休)  
襖4枚を御学問所北側で展示します。



北の間



淡彩が施された雉子や桜

こうしゅん

迎春は、孝明天皇の御書見の間として、安政度の御造営より少し遅れて安政5年(1858)に建てられました。御常御殿の北側から渡り廊で結ばれており、南から南の間・北の間・北取合の間が並んで

しおかわぶんりん

います。このうち五畳半の北の間には塩川文麟の画いた12面の花鳥図があります。

つがい

番の孔雀を始め、インコ、鶴、白鷺、雉子、アヒルなどの鳥、桜や木蓮、藤などの木々が季節毎に画かれています。そのうち北側の襖は、濃淡のある金泥引きの本紙に墨描きで、木蓮や桜を背景に岩に立つ雄と向かい合う雌の孔雀が画かれています。周りにはインコなどもいて、華やかさを加えています。鳥や木々には、淡彩が施され春を表現しています。

作者塩川文麟は江戸時代末から明治初期にかけて活躍した画家で、四条派の

おかもととよひこ

岡本豊彦に師事し、山水画を得意としました。京都御所には、このほか御常御殿御小座敷「和耕作」や、皇后御殿「新樹」を画いています。



花鳥図(北面)

# — 仙洞御所 —

## すはま 仙洞御所 南池の洲浜



仙洞御所南池の水際、きれいに平たい楕円の石を敷き詰めたところを洲浜と呼んでいます。

この洲浜の石は文化14年こうかく(1817)光格天皇が譲位されて上皇になられた際に、仙洞御所改修の一環として、当時の京都所司代の小田原藩主大久保忠真ただかねが献上したものです。

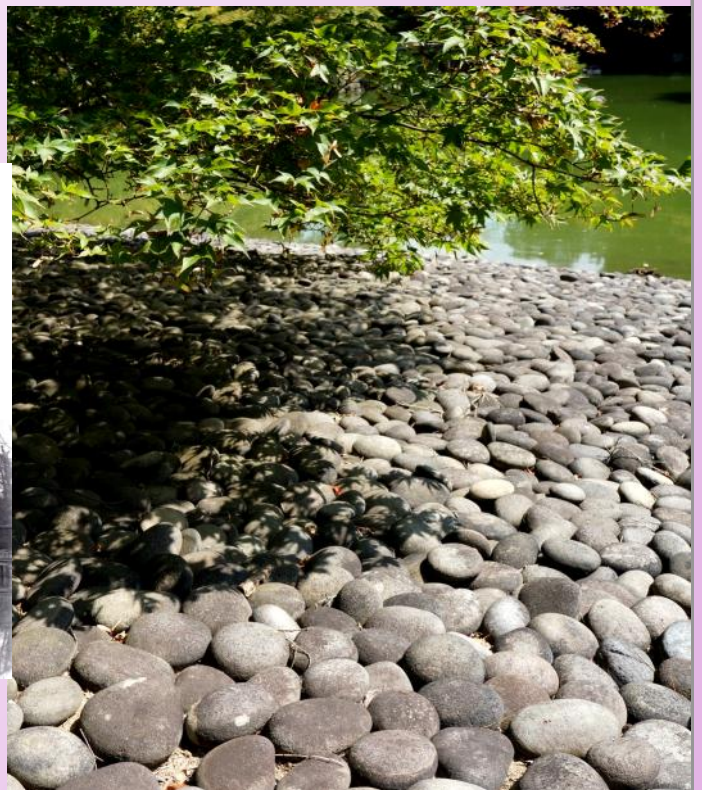
石は小田原領内の吉浜村(現在の湯河原町)の海岸から、2千俵を運んだとのこと

です。この石には一升石という呼び名がありますが、それは小田原藩がこの石と米一升を引き替えたとの伝承があることによるものです。

洲浜は南池の西岸のハツ橋南側から南岸にかけて長さ約100メートル、幅7～12メートルあり、石はそれぞれ10～15センチ、重さ400～800グラム位の平べったい安山岩の丸石で、総数約11万1千個あります。当時、これだけの粒揃いの石を集めることも大変だったかと思いますが、湯河原から京都まで運ぶのも相当な労力が必要だったことでしょう。



昭和11年3月の仙洞御所南池 洲浜の様子  
(京都事務所保存のガラス乾板より)



# — 桂 離 宮 —

## こしょいん 古書院と月見台

観



月見台から見る庭

桂離宮の御殿は古書院・中書院・新御殿などからなっていますが、このうち古書院が八条宮初代としひと智仁親王によって初めに造られた建物です。屋

根は柿葺きで、京都御所の各御殿に見られるような、照り屋根（反った屋根）ではなく、逆に起り屋根と言って緩やかなふくらみを持ったおとなしく見える屋根です。

古書院は離宮の池を正面にして建ち、その方角は東から約30度南に傾いていて、中秋の名月を観賞するのに適した位置だと言われています。2

代智忠親王は同じ方角で少しずつ後方に下がる

いわゆる雁行型に中書院・新御殿などを建てました。

古書院の内部は、一の間、二の間、鍵の間、  
囲炉裏の間などからなり、二の間の外に広縁を介して月見台があります。

二の間から月見台に抜ける明障子は、欄間にも障子が入れてあり、それも開けることで、大きく開放することができます。

月見台は幅4メートル、奥行き2.9メートルあり、周囲は栗の框とし、竹100本を簀の子張りしており、月を観賞するために広縁から池に突き出すように作られ、月見はもちろんのこと、苑内の主な茶屋や景観が一望できる位置にあります。

因みに桂離宮内では、この他にも、池に映る月を愛

でる月波楼があり、また月字形の引手（新御殿）、月字崩しの欄間（新御殿）など、月に関わる意匠も使われています。



月字形の引手

# — 修学院離宮 —

## りんうんてい 上離宮の隣雲亭



隣雲亭からの眺め

上離宮の御成門を入り、目線を遮る大刈り込みの急な石段を登りつめると、隣雲亭という建物が待ち受けています。眼下には浴龍池や棚田を見おろし、遠くには洛北の山々や京都市内が眺望できます。

隣雲亭は標高約150メートルにある柿葺きの建物で、現在の建物は文政7年(1824)に再建されたものです。内部には床の間も棚もなく、目立った飾りは何ひとつない六畳の一の間と三畳の二の間があります。その北側には三方吹き放しの洗詩台と呼ばれる四畳分の板の間があり、木立の奥を流れ落ちる落差6メートルある雄滝の水音が心地よく響きます。建物背後には、六畳2部屋と八畳1部屋があり、これらはお供の者の控えの間として使用されていたところでした。

深い軒下のたたきには、京都の賀茂川の黒石や鞍馬山の赤石を一個、二個組、三個組と規則的に配置して埋め込んであります。俗に一二三石と呼ばれています。



一二三石

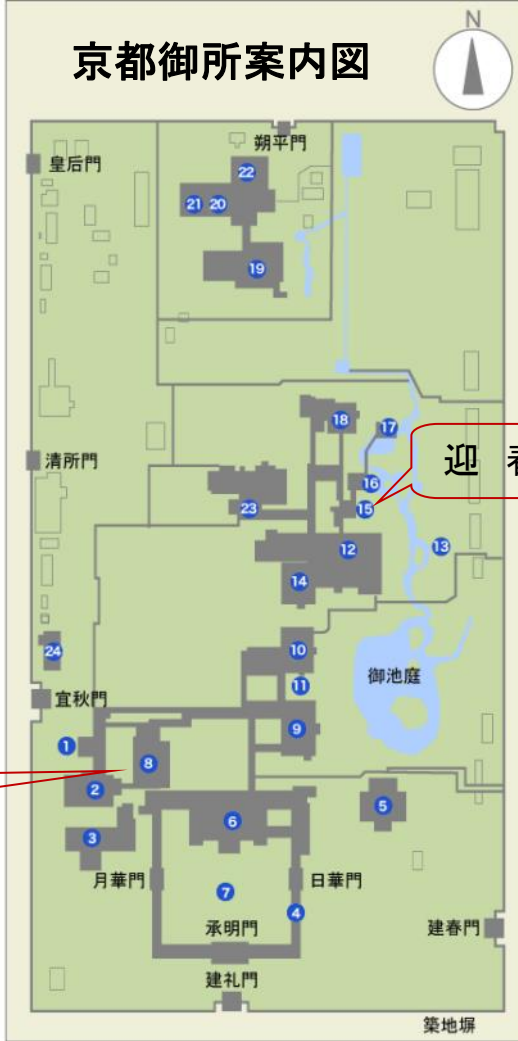


洗詩台



- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所

## 京都御所案内図



## 仙洞御所案内図



- |                |       |       |           |
|----------------|-------|-------|-----------|
| ① 京都大宮御所御車寄    | ⑧ 石橋  | ⑭ 土佐橋 | ㉒ 又新亭の外腰掛 |
| ② 京都大宮御所御常御殿南庭 | ⑨ 雌滝  | ⑮ ハツ橋 | ㉓ 又新亭     |
| ③ 御庭口          | ⑩ 紅葉橋 | ⑯ 中島  |           |
| ④ 北池の舟着        | ⑪ 紅葉山 | ⑰ 醒花亭 |           |
| ⑤ 阿古瀬淵と六枚橋     | ⑫ 蘇鉄山 | ⑱ 柿本社 |           |
| ⑥ 紀氏遺蹟の石碑      | ⑬ 雄滝  | ⑲ 洲浜  |           |
| ⑦ 土橋           |       |       |           |

清涼殿

迎春

洲浜

## 桂離宮案内図



古書院

月見台

隣雲亭

- |        |       |       |        |
|--------|-------|-------|--------|
| ① 御幸道  | ⑥ 石橋  | ⑪ 月波楼 | ⑮ 住吉の松 |
| ② 外腰掛  | ⑦ 松琴亭 | ⑫ 古書院 | ⑯ 桂垣   |
| ③ 蘇鉄山  | ⑧ 賞花亭 | ⑬ 月見台 | ⑰ 礎垣   |
| ④ 洲浜   | ⑨ 圓林堂 | ⑭ 中書院 |        |
| ⑤ 天の橋立 | ⑩ 笑意軒 | ⑱ 新御殿 |        |

## 修学院離宮案内図



- ⑤ 松並木
- ⑥ 大刈込
- ⑦ 隣雲亭
- ⑧ 万松塙
- ⑨ 千歳橋
- ⑩ 楓橋
- ⑪ 窮遼亭
- ⑫ 土橋
- ⑬ 御舟着
- ⑭ 西浜

これまでの「《京都》御所と離宮の葉」については、  
宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。



<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑 3  
 宮内庁京都事務所 代表電話：075-211-1211  
 参観係直通電話：075-211-1215

其の六：平成25年10月25日発行

令和3年9月7日改訂

次回の発行は来年1月頃を予定しています。